

臨床研究に関する情報の公開

作成日：2026/8/26

研究課題名	鞍上部病変に対する拡大経蝶骨手術時の下垂体半切除の有用性と治療成績の検討
研究の対象	これまでに、当院で鞍上部腫瘍に対する拡大経蝶形骨手術を受けられ、術野確保のため下垂体の半切除が必要と判断された患者さん。
研究目的	頭蓋咽頭腫などの鞍上部腫瘍に対する拡大経蝶形骨手術では、視交叉と下垂体の間隔が狭く、周囲に重要な神経や血管があるため、視交叉下面に十分な手術空間を確保できないことがある。このような場合、狭い術野で無理をすることで、下垂体周囲の視神経（視力障害、失明）や視床下部（意識、記憶、体温調節、満腹中枢障害）などを損傷する危険性が高くなる。これらの障害は、通常永久的な障害で、投薬では改善しない深刻な後遺症となる。これを回避するため、従来の手術書では下垂体茎の切断による術野確保が推奨されている。しかし、下垂体茎を切断すれば、ホルモン中枢である下垂体機能は全廃することになる。ただ、下垂体機能が全廃した場合も、術後にホルモン療法を継続すれば正常人とほぼ同様の日常生活が可能なることから、下垂体茎の切断が広く普及している。本研究では、下垂体機能を温存して、術野を拡大する方法として、下垂体の部分切除とその後の残存下垂体の移動の有用性を検討する。
研究方法	下垂体の部分切除と移動が有用であった症例を集め、術前画像診断から、この術式の適応症例を判定する。下垂体部分切除や移動による下垂体機能への影響と術後の画像変化を検討する。長期の治療成績、合併症についても検討する。”
研究に用いる試料・情報の項目 （例：血液、検査データ、診療記録等）	① 視力障害などの臨床症状、診療録記録 ② ホルモンなどの採血検査結果 ③ MRI や CT など画像検査による腫瘍の形状変化
研究期間	2018 年 6 月 1 日～現在研究継続中
外部への試料・情報の提供、取り扱いについて	原則、外部への試料・情報の提供は行いません。医療情報のデータの保管・管理は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。
研究代表者の氏名及び所属する研究機関の名称	北野 昌彦 社会医療法人寿会 富永病院 脳神経外科
研究責任者および試料・情報の管理責任者（共同研究の場合は研究代表者）の氏名及び所属する研究機関の名称	北野 昌彦 社会医療法人寿会 富永病院 脳神経外科
上記以外の研究機関の名称	
本研究に対するご質問などについて	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。
ご質問のお問い合わせ先	社会医療法人寿会 富永病院 脳神経外科 北野 昌彦 〒556-0017 大阪市浪速区湊町 1-4-48 TEL:06-6568-1601 FAX:06-66568-1608 Email: mkitano@tominaga.or.jp 研究代表者 北野 昌彦